

うみの森ほいくえん

取組概要

【効果】

● 顕著にあるのは身体の変化です。どの年齢においても言えるのは、疲れにくさ、でこぼこ道などを歩く事によるバランス感覚体幹がしっかり安定していくこと、さらにジャンプする、しゃがんだり、立ち上がるなど足腰の筋力や、ぎこちない動きから身体をスムーズに場に合わせて使えるようになること、さらに小さな物をつまむことや泥んこなどかなりいろんな感触を体験する事による、微細な動きと巧緻性も育ったといえる。転園児で「走り方が変わった。」と保護者から声もあった。また、外でしっかりと身体を動かす事によって、昼寝や食事などもしっかりと食べる、寝るなどの生活リズムにも繋がっていると感じている。

● また自然の中では、自然物を見立てて遊ぶ事で創造力が膨らんだり、こども同士が工夫して遊ぶ姿は、大人には思いつかない様な発想も多く、何もないからこそ何にでもなるのだという事を感じた。

● 自然の中で過ごす事によって、感性が育まれ、草花のつぼみや成長などの小さな変化や、生き物などの細かな事にも気がつき、それをさらにみんなにも伝えようと、感性と共感性も育っているように感じている。感性は、さらに友達の表情や、違いなどにも気がついたり、それを表現しようとする事によって、感情の表現や他者への言葉の選び方などにも感じる事があった。

季節ごとに様々な生き物に出会います。

のこぎりを使い、園庭の柿の実をとる年中児



マッチで火をつけ、片付けまで全て年中児でできるようになりました。



園庭の砂遊び。町やダム工事をする幼児と、感触遊びの1, 2歳児。



落ち葉の頃は落ち葉プール。四季によって遊び方も変化します。高く飛んでいるのは、1歳児さん。



アート講師によって、今年度も毎月自然物を使ったアートなども園庭で楽しみました。

園庭と園庭周辺での活動の様子

共生学舎さんの田畑など



竹林遊び。春はたけのご取りを楽しみました。



種まきをしながら、土遊びも。



夏は、ミニトマト、キュウリなど畑で採れたてを頂きます。



竹の滑り台。滑り方や、登り方もこどもが自分でできる、できないを判断して遊んでいます。



あぜ道の平均台。バランス感覚、そして体幹、平衡感覚、この場所も雨上がり、夏場など、土の硬さも変わるため、毎回少しずつがいます。



共生学舎の皆さん方が、畑にいくと、収穫をさせていただいたり、こども達に話しかけ見守って下さいました。

【内容】

木登り、砂遊び、草花を使った遊びや生き物との触れあい。竹馬、サーキット、綱引きボールなど身体を育む遊び。

田畑を耕し、種や苗を植えて育て収穫する。農業、食育体験。畑内での散策、おいかげごっこ鬼ごっこんなどのルールのある遊び。また竹の滑り台、木の実や草花を使ったごっこ遊びなど。